

暑さのメカニズムを知って 熱中症を予防

6月20日、「みらい」文化ホールで夏の熱中症予防推進大会が開催されました。

大会の第1部では、「熱中症おたすけ隊」に委嘱された29人のメンバーが、熱中症予防対策宣言を読み上げました。第2部では、気象予報士の檜山靖洋さんが「気象を知って熱中症予防対策」と題し講演。熊谷を中心とした地域が暑くなるメカニズムや熱中症を防ぐ効果的な方法などを分かりやすく解説しながら、健康的に夏を乗り切るよう呼び掛けました。



ガーナの人たちの笑顔のために

JICAの青年海外協力隊の一員として2年間、ガーナへ派遣される田島みなみさんが、6月20日、JICA職員の杉村さんとともに市役所を訪れました。

助産師として活躍している田島さんは、妊産婦・乳幼児健診といった母子保健サービスをはじめ、保健・衛生・栄養教育の支援などに現地で行われます。工藤市長から激励を受けた田島さんは「ガーナの人たちのため、少しでも力になれば」と元氣な笑顔で答えていました。



パリで行われたジャパン・エキスポ 2018で行田市の魅力を発信

7月5日から8日までの4日間、日本文化の総合博覧会としてフランス・パリで行われたジャパン・エキスポ2018に行田市日本遺産推進協議会が参加しました。

このイベントでは、ブース出展によるパネル展示や観光パンフレットの配布、足袋の販売が行われました。また、特設ステージでは足袋を用いたファッションショー「行田足袋コレクション」が開かれ、本市の多彩な魅力が発信されました。



爽やかな夏の朝に蓮を楽しむ

7月8日、古代蓮の里で第21回行田蓮まつりが開催されました。

早朝から多くの来園者でにぎわう会場では、蓮粥や蓮餅などが振る舞われた他、コーラスや太鼓の演奏など、さまざまな催しが行われました。園内の蓮も見頃を迎え、訪れた人々は写真を撮ったり散策したりしながら、爽やかな夏の朝に咲いた蓮のすがすがしい香りを楽しんでいました。



行田在来青大豆栽培から学ぶ 「地産地消」

7月11日、見沼中学校の1年生30人が、同校東側の畑に行田在来青大豆の種まきを行いました。

これは、総合学習の授業として行田市地産地消推進協議会の協力のもと、地産地消について学ぶことを目的に毎年行われ、今年は加須農林振興センターの職員とともに作業しました。

10月に枝豆、11月には大豆と段階的に収穫し、3月にはこの青大豆を使ったおから料理まで行うこの授業に生徒たちは、指を土の中に奥深く入れ、青大豆がおいしく育つよう熱心に取り組んでいました。



長く、あつい夏は、 大将まつりで始まる

7月1日、忍城址東門で気温35度の猛暑の中、「成田長親忍城城代就任428周年記念大将まつり」が行われました。

忍城おもてなし甲冑隊の登場に観客たちから歓声が上がリ、迫力ある演舞が始まると、たくさんのカメラや携帯電話からシャッター音が鳴り響きました。観測史上最も早い梅雨明けにより、大将の夏も長く、あつくなることでしょう。



熱い芸能パフォーマンスに見入る

7月1日、産業文化会館ホールで第21回ときめきレインボーフェスティバルが開催されました。

今年は例年より早く梅雨が明け、この日は気温が35度まで上昇し、とても暑い日となりましたが、ステージ上で繰り広げられるパフォーマンスを楽しもうと、大勢の観客が来場しました。出演したのは、吹奏楽連盟や久々の登場となった民謡協会など12団体。演奏や舞踊が披露されると、客席から大きな歓声や拍手が送られ、会場は外の暑さに負けないほど熱気に包まれていました。



気持ちをひとつに 綱を引き合う

6月30日、行田グリーンアリーナで第28回行田市綱引き大会が開催されました。

市内の小学生624人が出場し、低学年・中学年・高学年の3部門に分かれて熱戦を展開。大きな掛け声に気持ちを合わせて力いっぱい綱を引く選手たちに、会場からは熱い声援が送られました。